

西脇市立西脇病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年11月 策定

【病院の基本情報】（平成29年11月1日現在）

医療機関名：西脇市立西脇病院

開設主体：西脇市

所在地：兵庫県西脇市下戸田652番地の1

許可病床数：320床

（病床の種別）一般

（病床機能別）高度急性期：20床／急性期：300床

稼働病床数：320床

（病床の種別）一般

（病床機能別）高度急性期：20床／急性期：300床

診療科目：内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科（23診療科）

職員数：457人（正規・嘱託・再任用）

・ 医師	46人	・ 初期研修医師	11人
・ 看護師	256人	・ 准看護師	6人
・ 助産師	8人	・ 看護補助者	10人
・ 放射線技師	15人	・ 臨床検査技師	17人
・ 理学療法士	9人	・ 作業療法士	5人
・ 言語聴覚士	4人	・ 薬剤師	16人
・ 管理栄養士	3人	・ 臨床工学技士	5人
・ 社会福祉士	5人	・ 精神保健福祉士	2人
・ 事務職員	30人	・ その他	9人

（うち診療情報管理士3人）

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 診療機能の強化
北播磨医療圏における北部の拠点病院としての役割が求められています。中でも、がん治療の医療体制や脳卒中治療の病病連携体制、幅広い糖尿病治療体制の構築や、精神疾患、災害・救急への対応など、診療機能の強化を図ります。
- ・ 経営基盤の確立
地域中核病院としての役割を果たすには、人材を確保し、適切な機器整備を行う必要があります。そのために、繰出基準に基づく適正な一般会計負担を確保したうえで、経常収支の黒字を維持できるよう経営基盤の確立を目指します。
- ・ 人材の確保・育成
急性期医療を提供する地域中核病院として、必要とされる医療を継続して提供するため、医師や看護師、医療技術職等を安定的に確保、育成するとともにモチベーションのアップを図ります。
- ・ 収支計画・経営指標
財務諸表に影響となる地方公営企業会計制度の改正に伴い、累積欠損金の増をはじめ厳しい状況となっています。新たな会計制度のもと、将来にわたり持続可能な経営基盤を構築するため、数値目標を掲げます。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の急性期病床は一定程度維持する必要がありますが、規模の適正化を検討します。
- ・ 慢性期機能(緩和ケア病床20床)を提供する病床の整備について検討します。

③ その他見直すべき点

- ・ 必要とされる医療を継続して提供するために、改築(増築)を検討します。
(スペースの不足)

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	20	→	20
急性期	300		280
回復期			
慢性期			20
(合計)	320		320

- ・ 高齢化が更に進みがん患者の増加が見込まれ、緩和ケアの需要は増大するものと思われるため、慢性期(緩和ケア病床20床)病床の開設を目指します。
- ・ 許可(稼働)病床数は、変更しません。
- ・ 病床の機能に応じ、必要な改修工事を行う予定です。
- ・ 新築の予定はありません。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標
2016年度		○今後の病床のあり方を決定（経営基本計画策定）
2017～2019年度	○病床機能検討会の設立	○病床のあり方に関する合意を得る
2020～2021年度	○病床整備計画を策定 ○施工業者の選定・発注（病棟改修必要時）	○2020年度中に整備計画策定 ○2021年度中に着工（病棟改修必要時）
2022～2025年度		○2025年度末までに ・新病棟稼働 320床 高度急性期20床、急性期280床 慢性期（緩和ケア）20床

② 診療科の見直しについて

- ・ 現状の診療科を維持します。

<（診療科の見直しがある場合）具体的な方針及び計画>

① その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 89.4%
- ・ 手術件数 1,650 件
- ・ 紹介率 67.0%
- ・ 逆紹介率 61.0%

経営に関する項目

- ・ 人件費率 55.7%
- ・ 材料費率 22.3%
- ・ 経費比率 16.9%
- ・ 流動比率 262.2%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 0.48%